

ワクチン・パスポート：4つの倫理的反対論と応答 (Vaccine Passports: Four Ethical Objections, and Replies¹)

トム・ダグラス (Tom Douglas)

本稿は、オックスフォード大学哲学科に所属する4つの研究所が運営するブログ Practical Ethics²に掲載された表題の記事の紹介である。

現在、新型コロナウイルスワクチンの接種を証明する「ワクチン・パスポート」制度の導入がヨーロッパをはじめ各国で検討の対象となっている。著者のトム・ダグラスは、ワクチン・パスポートに対する4つの倫理的な反対論拠を取りあげそれぞれ批判することで、ワクチン・パスポート賛成の立場を擁護している。

イントロダクション

カフェに入る際や海外に渡航する際、あるいは〔医療や介護など〕感染リスクの高い職種で働く際、我々は、新型コロナウイルスワクチンの接種を証明するワクチン・パスポートの提示を求められるべきだろうか？

すでにワクチン・パスポートを部分的に導入している政府も存在するが³、多くは消極的である。しかし、ワクチン・パスポートに賛成する論拠は明らかだ。ワクチン・パスポートが導入されれば、ワクチンを接種した人々に対しては、移動の自由の深刻な制限と重い経済的・心理的コストを伴うロックダウン措置や隔離措置を取らずにすむのである。

いまのところ、ワクチンがどの程度感染を防いでくれるかは明らかでない。またワクチン・パスポートが導入されると、社会の一体感が損なわれ、ワクチンを接種していない人々が社会的制約⁴に従う意欲を失ってしまうといった望ましくない帰結も予想されうる。しかし、こうした問題は克服可能であると想定してみ

¹ <http://blog.practicaethics.ox.ac.uk/2021/03/cross-post-vaccine-passports-four-ethical-objections-and-replies/>

² <http://blog.practicaethics.ox.ac.uk/>

³ たとえばベルギーでは、平和維持活動で海外渡航する兵士はワクチンを接種しなければならない。

⁴ 先にも挙げられたロックダウン等のこと。

よう。そうすると、ワクチン・パスポートにはどのような道徳的反対論拠がありうるだろうか？

ワクチン接種の圧力

反対論拠1：ワクチン・パスポートは、ワクチンを接種しなければならないという圧力を人々に感じさせる。

応答：望まない人にワクチン接種の圧力を加えることよりも、ワクチンを接種した人々に厳しい社会的制約を課し続けることのほうが、少なくとも健康面ではより大きな害悪である。ワクチンはきわめて安全であるが、社会的制約は多くの人々のメンタルに重大な悪影響を与える。

また、我々には望まない医療行為を他者に強制する権利はない、と言われるかもしれない。しかし、ワクチン・パスポートは、文字通りの意味でワクチン接種を強制しているわけではない。むしろ、人々は単に、他者へのリスクを軽減するために、ワクチンを受けるか、社会的制約を受け入れるかの選択を与えられるだけなのだ。

差別

反対論拠2：ワクチン・パスポートは差別的である。ワクチンを接種していない人が介護施設で働けないのは、女性がパイロットになれないようなものだ。

応答：2つの事例には重要な違いがある。女性であることは航空機の安全な操縦と直接的には無関係であるが、ワクチンを接種していないことは、介護施設で安全に働くことと直接的に関係がある。身体的・精神的に不調な人々はパイロットとして働けないが、それと同じである。

不公平

反対論拠3：ほとんどの人々はまだワクチンの提供を受けていないし、また健康上の理由でワクチン接種の難しい人々もいる。彼らに責任はないのに、〔ワクチンを接種できた〕ほかの人々よりも厳しい社会的制約を課されるのは不公平だ。

この問題は、ワクチンが広く行き渡り、またワクチン接種に高いリスクが伴う人々のパスポート提示義務を免除すれば解決可能である。それに、ワクチンが行き渡っていない間でさえ、不公平の問題が決定的であるかは疑わしい。たとえば、

仮に25歳以下の人はコロナウイルスにほとんど感染しないことが明らかになったとしよう。我々はほかの世代の人々に対する公平性を確保するために、彼らに社会的制約を課し続けるだろうか？あるいは、そうすべきだろうか？

社会的排除

反対論拠 4：経済的に恵まれないグループの多くは、ワクチンの接種率が低い。ワクチン・パスポートは、彼らの社会的排除を加速させる。

この懸念は深刻で正当なものであるが、しかし、アウトリーチ活動と教育プログラムを通じて、そうしたグループの接種率を高めることで克服可能だろう。これらの試みが失敗に終わるなら、我々は、ワクチン・パスポートの適用を海外渡航など一部の活動に限定するといった方法で、社会的排除が悪化しないよう制御する必要があるだろう。いずれにせよ、社会的排除の問題は、ワクチン・パスポートの使用を部分的に制限する理由にはなっても、完全に取りやめる理由にはならない。

(要約：京都大学大学院文学研究科修士課程 鈴木英仁)